弊社の書籍をご利用いただき、有難うございます。 上記の書籍について、誤りが判明致しましたため、訂正のうえご利用ください。 ご迷惑をおかけし誠に申し訳ございません。

ページ	該当箇所	誤	正
問題編29	12・13行目	$()x + ()y \ge 50$ $()x + ()y \ge 90$	$()x + ()y \le 50$ $()x + ()y \le 90$
	14・15行目	x ≧ 40 y ≧ 40	x ≤ 40 y ≤ 40
問題編30 解答解説13	グラフ	y 100 40 A B 最適解 生産可能領域 D 40 50 90 x	プロの 40 30 生産可能領域 0 40 40 50 90 *** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** *
問題編30	2.最適セールス ・ミックスの決定	B(①と②) =(、) $70 \times ($) $+80 \times ($) =() $C(①と③) =($ 、) $70 \times ($) $+80 \times ($) =() $D($ 横軸と③) =(40、0) $70 \times 40 +80 \times 0 = 2,800$	B(②と③) =(、) 70×()+80×()=() C(横軸と③)=(40、0) 70×40 +80× 0 = 2,800

楽しい管理会計 問題集(初版 第1刷 2017年8月26日 刊行) 正誤表

ページ	該当箇所	誤	正
問題編43	2.(2) * 1	純売上高差異	総売上高差異(または総販売数量差異)
問題編44	1行目	純売上高差異	総売上高差異
	ボックス内	組合せ差異	総売上高差異
		純売上高差異	組合せ差異
解答解説13 例4	5•6行目	$(1)x + (0.5)y \ge 50$ $(1)x + (3)y \ge 90$	$(1)x + (0.5)y \le 50$ $(1)x + (3)y \le 90$
	7•8行目	x ≧ 40 y ≧ 40	x ≦ 40 y ≦ 40
	11~13行目	(2)最適な製品組み合わせ 製品X 40個 製品Y 20個	(2)最適な製品組み合わせ 製品X 39 個 製品Y 17 個
	グラフの下 2行目~	最適な生産・販売量の組合せとなるのは上記A、B、C、Dのいずれかです。	最適な生産・販売量の組合せとなるのは上記A、B、Cの いずれかです。
	下から9行目~	B(①と②) =(42、16) 70×(42)+80×(16)=(4,220) C(①と③) =(40、20) 70×(40)+80×(20)=(4,400) D(横軸と③)=(40、0) 70×40+80×0=2,800 したがって貢献利益が最大になるのはC点です。	B(②と③) = (39、17) 70×(39)+80×(17)=(4,090) C(横軸と③)=(40、0) 70×40 +80× 0 = 2,800 したがって貢献利益が最大になるのはB点です。
解答解説14	例4の解説 5行目 B点の求め方	$x + 0.5 y = 50 \cdots ①$ $x + 3 y = 90 \cdots ②$ ②一① x + 3 y = 90 -)x + 0.5y = 50 2.5y = 40 y = 16 ①に $y = 16$ を代入すると $x + 0.5 \times 16 = 50$ x = 42	x + 3 y = 90 ···② x = 40 ···③ ②に x = 40を代入すると 40+3 y = 90 y = 16.66 ··· → 16(生産個数は整数のため、端数切捨て) この端数切捨てにより、(x, y)=(40, 16)のときには、 生産能力に余力が生じます。 そこで、貢献利益を(x, y)=(39, 17)のときと比較します。 (40, 16)のとき:70×40+80×16=4,080円 (39, 17)のとき:70×39+80×17=4,090円 以上より、B点を(x, y)=(39, 17)とみなします。

ISBN978-4-7810-0010-7 C1034 ¥1200E